



テレビを見ていると「科捜研の女」シリーズの主演女優、沢口靖子が、デビュー作、朝のNHK連続ドラマ「滯つくし」の話をしていました。もう30年以上前ですが、当時視聴率50パーセントを超えていた「滯標 みおつくし」という話です。ところで、「滯つくし」の本来の意味は何なのでしょう？

百人一首には次の二首があり、源氏物語の巻名にもなっています。

わびぬれば いまはたおなじ 難波なる みをつくしても あはむとぞおも  
難波江の 芦のかりねのひとよゆえ みをつくしてや 恋ひわたるべき

次の二つの歌は作者不詳ですが、万葉集にある歌です。

みをつくし 心尽くして 思ふかもここにも もとな 夢(いめ)にし見ゆる  
とほつあふみ いなさほそえの みをつくし あれをたのめて あさましものを

「みをつくし」は掛詞です。「掛」は掛け算の掛けです。掛け算は英語では multiplication 「掛ける」に相当する単語は multiple 気付いた人もいると思いますが日本語になっているマルチプル、マルチ商法のマルチです。英語も日本語も掛けるという言葉はたくさん、どんどん増えるという意味をイメージしているようです。マルチ商法は、昔はねずみ講といていたように「子」をどんどん増やして儲けるのです。ですから「掛詞」は複数の意味を持つ言葉ということではないかと私は勝手に推測しています。それはさておき、「みをつくし」の複数の意味とは「身を尽くす」と「滯標(滯つくし)」です。「滯標」とは船のための海上の航路標識です。難波江、今の大阪湾にも設置されていました。現在の大阪市の市章になっていて、地下鉄や市営バスのマークにも使われていて、大阪のシンボルマークです。「滯標」の「滯」は船の航行可能な、ある程度水深のある場所を指し、「標」は標識からもわかるようにするしです。「滯標」は航路を示すために水中に立てた木の杭です。それは波に洗われて細くなっていくので、身を尽くして航路を示すというイメージとなったのでしょう。ここで、特に「標」に注目してください。数学では、「標」がつく言葉といえば「座標」ですね。「座」の方は星座・上座というように場所・位置を表します。「銀座」というのは元々、銀貨の鑄造を行った場所です。「座標」というのは位置を表すしなのです。この座標を考えたのは近代哲学の父デカルトです。

「我思う。ゆえに我あり」という言葉も「困難は分割せよ」も彼の言葉です。デカルトはフランス人、デは英語のザとおなじで、デ・カルトと区切られ、カルトは英語ではカード、オランダではカルタですから、歌留多(カルタ)使いのルネといったところでしょう。

デカルトはある朝、天井を這っている蠅を見て、縦・横二本の数直線を用いれば、それぞれ縦・横の目盛を示す二個の数字の組でその位置を表すことができると、座標を思いついたそうです。現在、座標の設定の仕方はいろいろバリエーションがありますが、この最初にデカルトが考えた二本の直交する数直線、x軸とy軸で表される座標はデカルトにちなんで Cartesian coordinate カルテシアンコーディネイトと呼ばれています。coordinate が座標で、co はコサインのコや協同組合コープのコと同じで、「合わせる。協力する」という意味です。ordinate は order からきていて、order は注文のオーダーと同じで、もともと順序という意味を持っていますし、数直線は直線上に数を大小の順にならべたものですから coordinate は二本の数直線を垂直に合わせて、点の位置を表すということになります。そして、これはファッションでは「コーディネート」です。コーディネートも座標と語源は同じなのですね。デカルトの座標のおかげで、点を数字の組(x, y)、図形を方程式 $y=f(x)$ と表し、計算で図形の問題を解くことができるようになったのです。さらに、ニュートンのフックに宛てた手紙の中の言葉

: If I have seen further, it is by standing on the sholders of Giants.

からもわかるように、ニュートンとライブニッツが創り上げた、運動を記述する「微分積分学」の発達の基礎・土台となっていくわけです。